

編集後記

▼九〇年代以降の第三次改悪運動に連動して教育基本法を改正しようとする策動が盛んです。その意図が成嶋論文で明らかにされています。

この問題が「国家構造の全面的な『改革』」の動きの中で起きており「教育の領域においても…『規制緩和』路線と、『危機管理』路線が同時平行的に進んで」という指摘は情勢把握の為の大切な視点だと思います。

教育基本法改正論の論点の脆弱さをこの論文でしっかりと学び、親や教師の中で「真の教育改革とは何か」を語り合う輪を広げてゆかねばと思いました。

▼特集は母親たちのエネルギーを核として育ててきた様々な子育て・教育・文化運動を集めました。二十一世紀の社会を形づくってゆく運動の原型のようなものを感じました。

邪な支配者の束縛から自律・自立できるようにするには民衆が賢くなるしかありません。賢さの根源は社会的共同と人類の叡智の結実である科学です。これらの運動の中では学者・研究者たちが母親たちがその科学を学ぶ仲立ちをし、それを通じて協同を深めてい

ます。さまざまの分野の運動家たちや行政担当者が苦闘の中で身につけた運動の組み立ての経験を母親たちに伝えていきます。そして日本の企業社会の呪縛を断ち切りながら、男たち、父親たちが未来を担う子どもたちの成長を共同して支えるという形で新たな民主的共同社会の基礎造りに参加しはじめています。

七〇年代までの諸運動との違いをきちんと検証してみる必要性を痛感しました。この点で佐藤一子氏の論文はわたしたちの視野をひとまわりもふたまわりも広げてくれます。是非お読みください。

この69号が学校や地域で多くの人の手に渡り、読んだ人たちのそれぞれの子育てに少しでも役立ち、運動への参画、また教育運動の相互の理解と交流に役立つことを願っています。

▼立石氏の「北欧の環境教育」はとても楽しく、目から鱗です。お話をきく機会が欲しい。▼「大江健三郎さん講演辞退問題」についての見解は教育基本法改悪の動きへの鋭い警戒心が大切なことを提起しました。言論の自由もわかってない。問題校長、の問題ではないのです。

▼「性的虐待」の二つの講演、勉強になりました。これを契機にこの問題を正面にすえた

県内の取り組みが高まることを願います。▼依頼した原稿一つ間に合わず、慌てました。八木氏が敗血症病後の体調の中、急遽助けられました。能天気の本ッシュ大統領に代表される超大国アメリカの国際政治での悪行とその背後にあるものがよくわかりました。(本田)

にいがたの教育情報 NO. 69

2002年3月25日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所

発行人 長崎 明

〒951-8116 新潟市東中通1-86 山崎ビル

電話・FAX (025) 228-2924

振替口座・00640-0-12332

印刷所・中央印刷さびす

本誌内容の無断転載を禁じます。